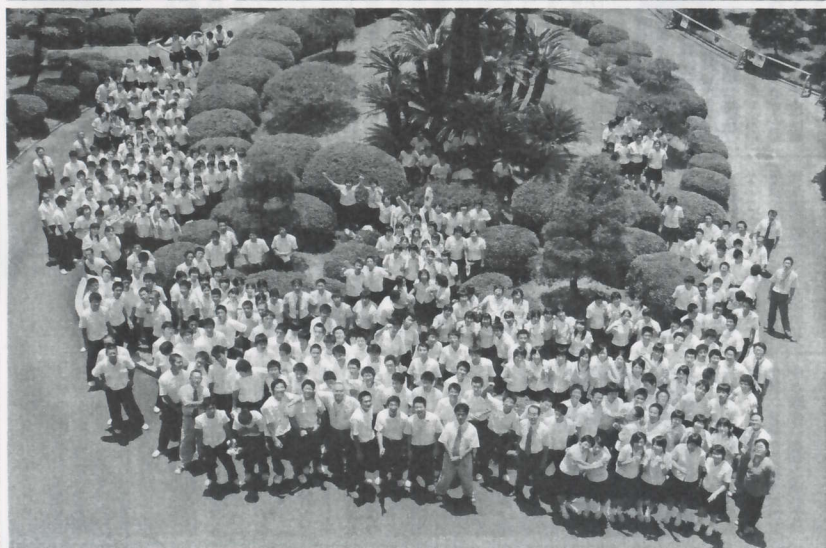


それぞれの夢を求めて



第57回生

三〇名が八幡台を飛び立つ

三月一日(木)、第五十七回卒業式が挙行される。「卒業証書授与式」では、クラスごとに担任が生徒の呼名をし、代表が証書を受け取る。昨年は三年の担任が全員羽織はかまで登場し、卒業生をばけせた。卒業式で中島洋校長が式辞、生徒会会長の池田大介くんが送辞をする。卒業生代表として、空手道部で活躍した佐野ユカリさんが答辞を述べた。蛍の光・仰げば尊しを唄い、最後に高らかに校歌を斉唱する。卒業生のみさんの大いなる飛翔をお祈りしたい。

贈る言葉

校長 中島 洋



「輝け 北辰のこゝろ」を合言葉に、文武両道を旨として、学習に、部活動に、学校行事に、そして努力を凝らした第五十七回卒業生を送る。卒業おめでとう。さて、「卒業」という今日の日は、決意の日、もう一度スタートする大事な日でもあります。卒業という節目に当たって三つの言葉を贈りたいと思います。その第一は、「若しみの中に飛び込む」ということです。今日を限りとして、諸君は一人で荒波にまかせ出さなければなりません。言い換えれば自律する諸君を目指すべきということです。自律する諸君の今後の道には、

- 多くの困難があります。困難に遭った時には避けることなく、逃げることなく、困難に果敢に立ち向かっていくことが大切です。第二は、やはり「オンリーワン」になつて欲しいということです。時代は諸君の柔軟で若き溢れる個性を求めています。どうか今日からのあらゆる場面で切実に「自分」を磨き、「オンリーワン」を目指していただきたいと思ひます。第三は、「不遜と慢心」を自分の心に対して「こわさ」を感じることをできる人になつて欲しいということです。常に謙虚な気持ちを持ちながら、自分の行動を反省することは人生を生き抜くうえで大切なことだと思ひます。どうか自分自身への「こわさ」を知ることができるとは謙虚な態度を持って毎日を送ってもらいたいと思ひます。第五十七回卒業生全員の実り豊かな将来を祈念いたします。
- ①川口 史高 筑波大学第 一 学群 人間学類
②佐世保北高で学んだことを忘れず、活かしていきたい。
③部活動、とにかく部活動で頑張った日々が、私の一番の思い出です。
④部活動、とにかく部活動で頑張った日々が、私の一番の思い出です。
⑤部活動、とにかく部活動で頑張った日々が、私の一番の思い出です。

卒業生は語る

進学・就職が内定している卒業生に卒業に当たっての抱負、高校生活のこと、後輩へのアドバイスインタビューしました。

- ①氏名 ②進学・就職先 ③卒業に当たっての抱負 ④最も頑張ったことや一番思い出に残っていること ⑤進路決定や学習についての後輩へのメッセージ

①松本 敏史 広島大学教育学部 第二類自然系コース
②北高ではたくさんの出会いがありました。特に、部活動で出会った先輩や後輩の皆さん。彼らの背中を追い、私も頑張っていました。卒業してからは、それぞれの道に進みますが、北高で学んだことは一生の宝になります。後輩の皆さん、頑張ってください。

①初田あかり 佐世保市立看護専門学校
②目標は、看護師になることです。北高で学んだことは、私の大きな支えです。特に、部活動で学んだチームワークは、私の人生に大きな影響を与えました。卒業してからは、看護師として社会に貢献したいと思います。後輩の皆さん、頑張ってください。

私は歴史の勉強が好きです。理由は、ただ単に昔の人の生活や文化に興味があるからではなく、現代の社会や人間性を知る手がかりになるからです。歴史を学ぶことで、私たちは自分たちの生活や文化の成り立ちを知ることができます。そして、過去の失敗や成功から学ぶことができます。歴史は、私たちの未来を照らす鏡です。後輩の皆さん、歴史を勉強してください。





▲気合い十分のスタート

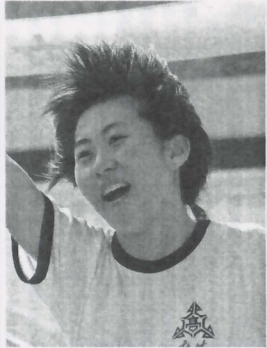
一月十日(本)佐世保市総合グラウンドを出発。ゴールにして周辺の周囲コースで、恒例の北高校内マラソン大会が、二年生全員と進路決定した三年生が参加して行われた。朝まで降った雨上がり、少し肌寒いながらも晴天に恵まれ、男子は六km(二周)、女子は六km(二周)の長距離に挑んだ。九時五十分、男子がスタート、三年生が交代でペースメーカーと走るのが苦手な人の伴走つとめた。レースは三周目から永見(二年)が飛び出し、そのままゴールのテープを切った。また、男子賞が最後まで力走し、九十分の制限時間内にゴールした。女子の部は、十一時二十

寒風のなか元気に完走

男子10km(4周)、女子6km(2周)

北高校内マラソン大会

個人優勝は
男子 永見くん(1の4)
女子 麻生さん(2の5)
陸上部が制す



女子優勝の麻生さん(2-5)



トップでゴールする永見さん(1-4)



団体優勝の1年3組

男子			女子		
優勝	永見聡一郎(1-4)	34分27秒	優勝	麻生 唯(2-5)	24分56秒
2位	山口 大輔(1-7)	35分47秒	2位	植松 結二(2-3)	25分17秒
3位	岩永 裕樹(2-1)	36分16秒	3位	松崎 夕美(2-1)	25分49秒
個人			個人		
優勝	永見聡一郎(1-4)	34分27秒	優勝	麻生 唯(2-5)	24分56秒
2位	山口 大輔(1-7)	35分47秒	2位	植松 結二(2-3)	25分17秒
3位	岩永 裕樹(2-1)	36分16秒	3位	松崎 夕美(2-1)	25分49秒
クラス対抗戦			クラス対抗戦		
優勝	1年3組	120分3秒	優勝	1年3組	120分3秒
2位	1年7組	122分4点	2位	1年7組	122分4点
3位	2年7組	123分0点	3位	2年7組	123分0点

第1回 北辰行 (北中1年生)

118名が神崎鼻までの26kmを踏破
(参加者全員) (本土最西端、小佐々町)



元気にVサイン (佐世保市内)



豚汁で元気回復 (小佐々町)



8:20学校出発



神崎鼻ゴールに全員到着16:50



疲れた表情に (佐々町)

母の会の豚汁で元気回復

エックポイントの小佐々町スポーツセンター(四七キロ地点)で昼食をとった。長い道のりを一緒に歩き、高校生とも打ち解けた様子であった。(中には、「中学生と話題が合わない!」と嘆く高校生も)。荷物は軽くなって十分エネルギーも補給できたが、その後すぐに上り坂が始まる。徐々に先頭と後頭の差は広がり、第四エックポイント(二二・八キロ地点)では最初と最後の差は時間を越えた。疲れから口数が少なくなる生徒も。

目指す気力を取り戻したようである。そしていよいよゴール。最後の坂を上り、本土最西端の地から海を臨む生徒の表情は充実感でいっぱいであった。ケガ等で途中を車で移動せざるを得なかった者や、エックポイントの通過タイムから判断して時間内に完走することが危ぶまれるグループもあったが最後は気力を振り絞り参加者全員が徒歩でゴールすることができた。最後のグループが到着したのは出発から約七時間半後

であった。閉会式での柳田生徒会副会長の言葉にもあったように、全員が無事にゴールできたのは保護者の方や同校の高校生、休憩所やトイレなど場所を提供してくださった地元の方の協力のおかげである。この「北辰行」は、単に自分の体力の限界に挑戦する機会というだけでなく、自分が周囲の人々にいかに支えられているかということを確認する機会にもなったのではないだろうか。

スキー、ディズニーランド、東京の修学旅行

球部(男子)

六月一日、県高校総体が開閉した。今年佐佐保孝がメダルを会場に行われ、相模合合ラウンドの開会式が行われた。関東の挨拶をつたのを始め、北高生が習字を役割を果たした。翌日から各競技が行われ、暑さの中、各都県も精一杯の力を発揮した。団体では弓道子が六年生りの優勝を決め、女子テニスは初の団体優勝を勝ち取った。その他も、多くの部が健闘し、好成績を修めた。個人種目でも、テニス女、陸上を頭出し、練習の成果を十分に発揮した。

十十五日、佐世保市民
 会館でミュージカル「ド
 クト長英を讃賞した。『わ
 らび座』が高原長英誕生二
 百年を記念して長英の生涯
 をミュージカル仕立てで公
 演したものだ。最後はアン
 ハッピーエンドにもかかわらず、見終わったあとに感
 動が残った。親類の帰り道
 二年男クラの生徒数名がテ
 「目を開け、海の行く末に、」
 「目を開け、国に行く末に、」

例年以上に賑やかな体育祭となった。最も盛り上がったのは、青の背の北辰フェスタで、赤・黄の北原フェスタで工夫を凝らした運動会には笑いがこぼれなかった。

最優秀賞を勝ち取ったのは、金子君率いる三年五・八組、二年一・四組、一年一・四・五組、中学二組からなる優勝組であった。

総合優勝は三年一・三・七組、二年六・七組、一年三・六組、中学一組の赤組が勝ち取った。終了後は少し疲れたが、十分満足感を味わった体育祭であった。

北辰祭

北辰祭は体育祭に続き、九月十一日（土）文化祭が行われた。中学生を交えて行われた初の文化祭で、とても活気あるイベントとなった。「おばけやしき」は終日行列ができており、「フランクフルト」「そばめし」「焼きとうもろこし」の食物パザーは大人気で、昼過ぎには完売してしまった。

一月二十八日（金）六・七校時、日本マクドナルドの原田永幸先生（代表取締役副会長兼社長兼CEO）をお迎えして講演会が開催された。

一月十五日(土)、十六日(日)の両日大学入試センター試験が会場を長崎県際田から長崎県立大に移して行なわれた。

今年は雪がちづく寒い天気となつたが、先輩方は今まで学んだことを發揮しようとする気迫が感じられた。学校から会場までの賃切っぱには、激励会で後輩がプレゼントした下羽織も持ち込まれていた。試験終了の翌日には、さっそく自己採点をしてその結果で大学に出願、一月末の二次試験に挑む。